

技術資料

2019年9月

農林水産省登録
第22825号

石原 芝用殺菌剤
グリーンワーク[®] WP

[®]は登録商標

夏場の病害防除の薬剤ローテーションにこの一剤!

250g
×
8袋



石原バイオサイエンス株式会社

石原

グリーンワーク WP の特長

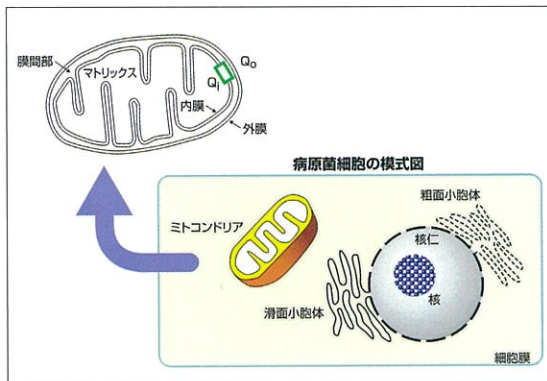


- 特長 1 ユニークな2つの作用機構で薬剤のローテーション散布に有効
- 特長 2 ピシウム病と炭疽病、葉腐病の同時防除が可能
- 特長 3 少水量散布による作業効率アップが可能

特長1 ユニークな2つの作用機構でローテーション散布に有効

ユニークな作用性をもつ2成分の混合剤です。発生回数の多い炭疽病等の病害の薬剤ローテーション散布に組み入れることで、耐性菌発生リスク管理に役立ちます。

シアゾファミド



作用機構

シアゾファミドは電子伝達系複合体ⅢのQ_i部位に特異的に結合し、その酵素活性を阻害し膜内での電子伝達系(呼吸系、エネルギー生産系)を阻害します。

病原菌への作用

ピシウム菌(卵菌類)に特異的に作用し、エネルギー生産を止めることで、菌糸生育、孢子(遊走子のう、被のう孢子、卵孢子)形成を強く阻害し、死滅させます。

ポリオキシシンD亜鉛塩



発芽管の膨潤

作用機構

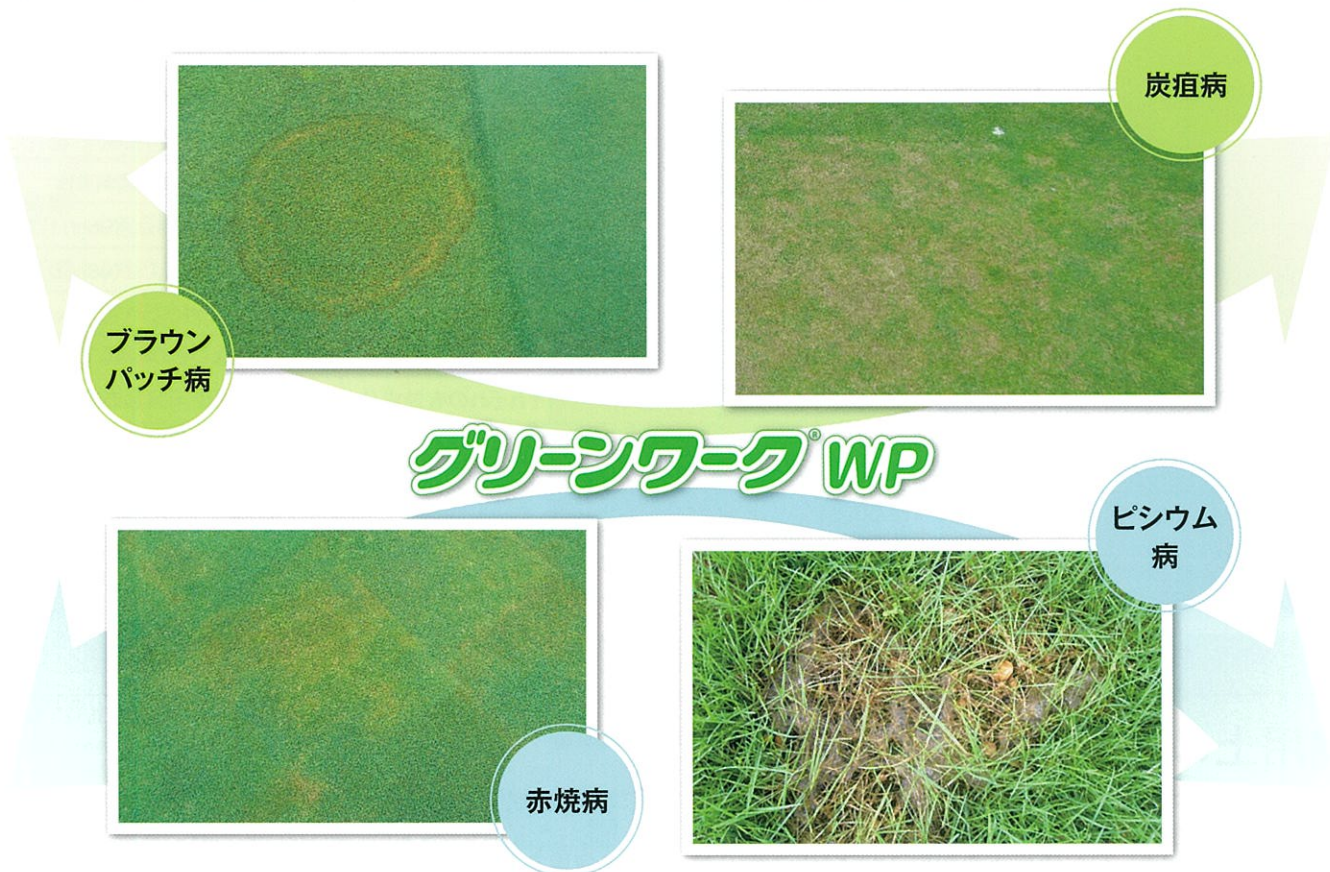
植物病原菌の細胞壁構成成分であるキチン質の生合成系に作用し、菌糸細胞壁の形成を阻害することで菌糸先端の膨潤、原形質の突出や流出がおき、菌糸の伸長を停止させます。

病原菌への作用

炭疽病菌、リゾクトニア属菌に作用し、孢子発芽を抑制するとともに、菌糸伸長および孢子形成を阻害します。


特長2 ピシウム病と炭疽病、葉腐病の同時防除が可能

作用性の異なる2種類の有効成分により幅広い病害に抗菌活性を示します。



特長3 少水量散布による作業効率アップが可能

少水量の散布により、散布作業の省力化が期待できます。

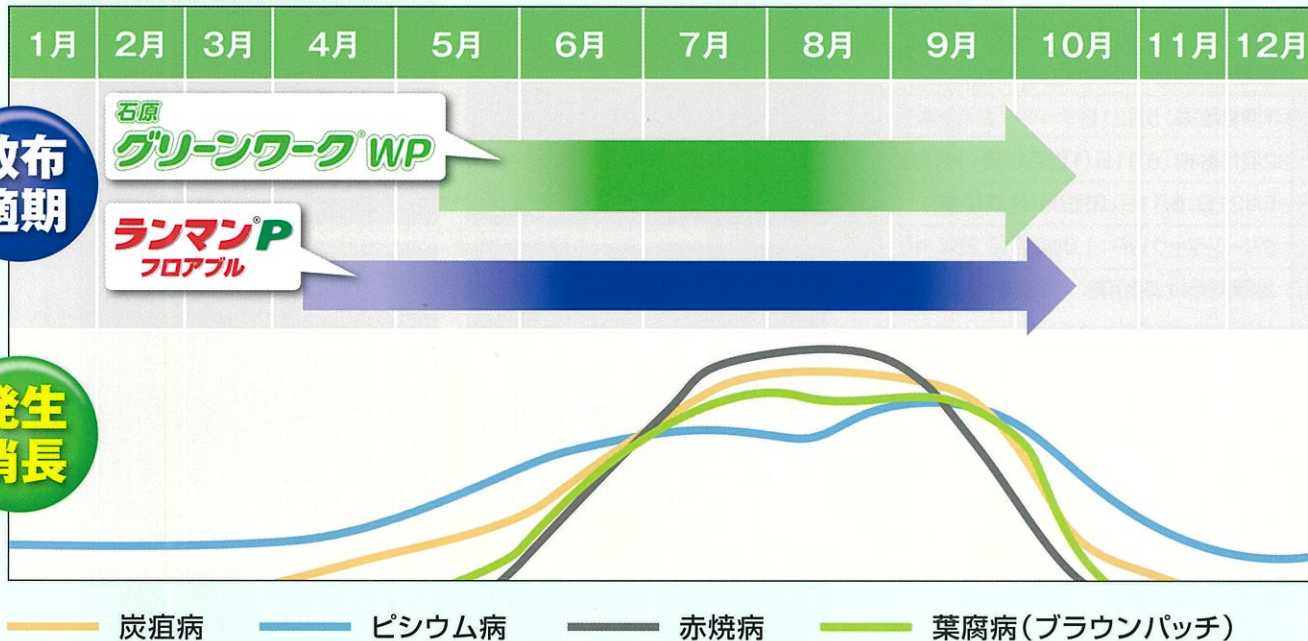


	400倍希釈 0.1ℓ/㎡散布	1,000倍希釈 0.25ℓ/㎡散布	2,000倍希釈 0.5ℓ/㎡散布
水	1,000ℓ	1,000ℓ	1,000ℓ
グリーンワークWP	2,500g (250g×10袋)	1,000g (250g×4袋)	500g (250g×2袋)
散布面積	10,000㎡	4,000㎡	2,000㎡

上手な使いかた

各病害の発消長(例)

地域や生育環境によっては発生時期が異なります

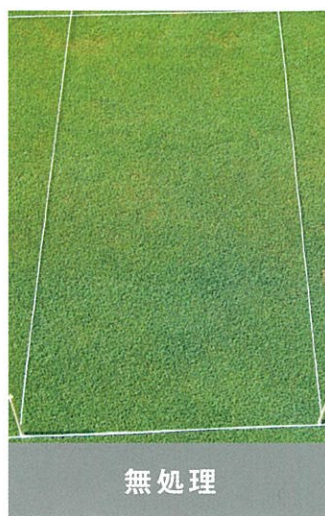


それぞれの病害の発生盛期となる夏場は、高温多湿条件でベントグラス自体の生育が弱っており、一度発病してしまうと、薬剤での治療が難しく、回復までに時間を要するので、発生初期からの散布をお勧めします。

ベントグラスに対する影響

グリーンワークWPは夏場のベントグラスに対しても安心してご使用いただけます。

試験場所	兵庫県
処理日時	平成24年9月6日
調査日時	平成24年9月12日、9月20日
処理薬量	1,000倍 250ml/m ² (標準薬量) 250倍 250ml/m ² (4倍量) 125倍 250ml/m ² (8倍量)
試験結果	標準薬量の8倍量でベントグラスに対し薬害は認められなかった。



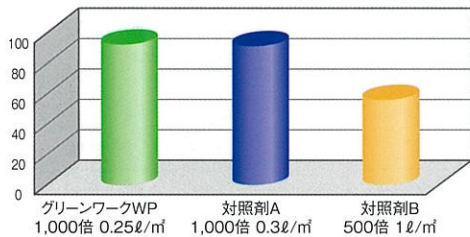
9月12日撮影(処理6日目)

炭疽病に対する効果

月 日	平成21年 5月21日～6月9日
試験場所	関西グリーン研究所
対象作物	クレーピングベントグラス(ペंकロス)
対象病害	炭疽病 (<i>colletotrichum graminicola</i>)
散布時期	1回目散布: 5月21日 2回目散布: 6月1日(1回目処理11日後)
調査時期	5月21日、6月1日、6月9日(最終調査)
供試薬剤	グリーンワークWP: 1,000倍 (0.25ℓ/㎡) 対照剤A: 1,000倍 0.3ℓ/㎡ 対照剤B: 500倍 1ℓ/㎡

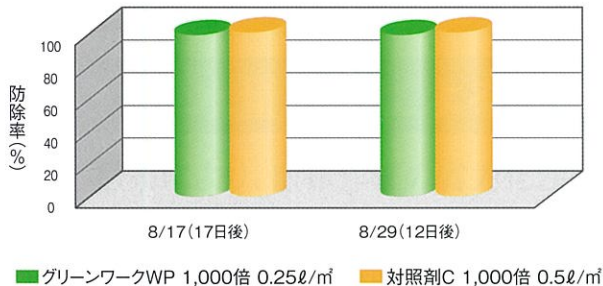


グリーンワークWPは炭疽病に対し、対照剤Aと同等、対照剤Bよりも効果は勝った。また、ベントグラスに対する薬害も認められなかった。



平成21年度 日植防 委託試験成績

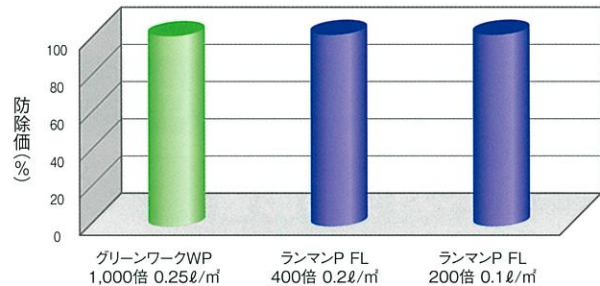
炭疽病



■ グリーンワークWP 1,000倍 0.25ℓ/㎡ ■ 対照剤C 1,000倍 0.5ℓ/㎡

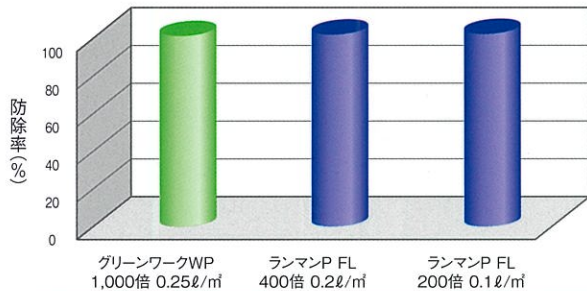
場 所: 新中国グリーン研究所
散布日: 7月31日、8月17日 調査日: 8月17日、8月29日
発病状況: 中発生

赤焼病



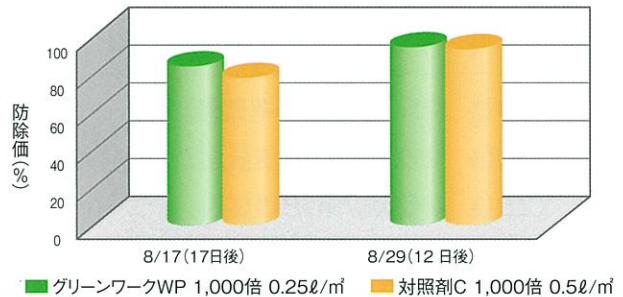
場 所: 関西グリーン研究所
散布日: 9月7日 調査日: 9月19日(処理12日後)
発病状況: 中発生

ピシウム病



場 所: 東日本グリーン研究所
散布日: 6月15日
調査日: 6月29日(処理14日後)
発病状況: 小→中発生

葉腐病(ブラウンパッチ)

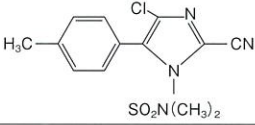
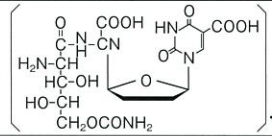


場 所: 新中国グリーン研究所
散布日: 7月31日、8月17日
調査日: 8月17日(1回目処理17日後) 8月29日(2回目処理12日後)
発病状況: 中発生

本剤の特性

有効成分および物理的・化学的性状

安全性(製剤)

一般名	シアゾファミド	ポリオキシンD亜鉛塩	人畜毒性 (製剤)	※ 普通物	急性経口毒性	ラット 雄♀	LD ₅₀ >2,000mg/kg
有効成分含有量	20.0%	9.0% ポリオキシンDとして80,000PsDu/g			急性経口毒性	マウス 雄♀	LD ₅₀ —
化学名	4-クロロ-2-シアノ-N,N-ジメチル-5-p-トリルイミダゾール-1-スルホンアミド	ジンク 5-(2-アミノ-5-O-カルバモイル-2-デオキシ-L-キシロンアミド)-5-デオキシ-1-(1,2,3,4-テトラヒドロ-5-カルボキシ-2,4-ジオキソピリミジンル)-β-D-アロフランウロニックアシド			急性経皮毒性	ラット 雄♀	LD ₅₀ >2,000mg/kg
分子式	C ₁₃ H ₁₃ ClN ₄ O ₂ S	C ₁₇ H ₂₃ N ₅ O ₁₄ Zn			急性吸入毒性	ラット 雄♀	LD ₅₀ —
構造式					皮膚刺激性	ウサギ	刺激性なし
性状	淡褐色水性和性粉末 45μm以下(製剤)		水生生物への影響	眼刺激性	ウサギ	軽度の刺激性	
				皮膚感受性	モルモット	ごく軽度の刺激性	
					コイ	LC ₅₀ (96hr) 170	
				オオミジンコ	EC ₅₀ (48hr) 0.15		
				藻類	ErC ₅₀ (0-72hr) 1.7		

※毒劇物に該当しないものを指している通称。

適用病害と使用方法

*本剤およびそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

作物名	適用病害名	希釈倍数	1㎡当たりの使用液量	使用時期	使用方法	総使用回数*		
						本剤	シアゾファミド	ポリオキシン
西洋芝 (ベントグラス)	葉腐病 (ブラウンパッチ) ピシウム病	2,000倍	0.5ℓ	発病初期	散布	6回 以内	6回 以内	6回 以内
		1,000倍	0.25ℓ					
	400倍	0.1ℓ						
	炭疽病 赤焼病	1,000倍	0.25ℓ					
		400倍	0.1ℓ					

本内容は令和元年6月26日付けの登録内容に基づいています。

使用上の注意事項



- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- 予防効果主体の剤なので、発病初期に散布してください。
- 本剤の使用にあたっては、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。
- 公園等で使用する場合は、散布中および散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意してください。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないように注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをして衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないように注意してください。魚毒性等…散布器具・容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。

ラベルを守って正しく使いましょう!
適用作物、薬量(希釈倍数)、使用時期、使用回数を守りましょう
石原は「食の安全」を大切にします

● 使用前にはラベルをよく読んでください。● ラベルの記載以外には使用しないでください。● 本剤は小児の手の届くところには置かないでください。● 空袋は圃場などに放置せず、適切に処理してください。

ISK 石原産業株式会社

本社 〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目3番15号 ☎(06)6444-7154 FAX(06)6444-7156
中央研究所 〒525-0025 滋賀県草津市西渋川2丁目3番1号 ☎(077)562-3574 FAX(077)561-2024

ISK 石原バイオサイエンス株式会社

本社 〒102-0071 東京都千代田区富士見2丁目10番2号(飯田橋グラン・ブルーム) ☎(03)6256-9170 FAX(03)3263-2078
札幌支店 〒060-0003 札幌市中央区北三条西1丁目1番地(サンメモリア) ☎(011)261-0211 FAX(011)271-3376
仙台支店 〒980-0811 仙台市青葉区一番町1丁目1番41号(カメイ仙台中央ビル) ☎(022)227-6813 FAX(022)264-4585
東京支店 〒102-0071 東京都千代田区富士見2丁目10番2号(飯田橋グラン・ブルーム) ☎(03)6256-9190 FAX(03)3237-0571
大阪支店 〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目3番15号(新石原ビル) ☎(06)6444-1454 FAX(06)6441-0765
福岡支店 〒810-0001 福岡市中央区天神5丁目10番11号(イトーピア天神ビル) ☎(092)751-0432 FAX(092)761-5924

本印刷物は、令和元年9月時点での知見に基づいて作成しています。

ISK 石原バイオサイエンス株式会社

ホームページアドレス <http://ibj.iskweb.co.jp>

FreeDial 石原テレホン相談室 0120-1480-57

取り扱い